



南国果物のサイドカーテンに 多層断熱資材

エナジーキーパー® (品番: **EK-L**)

生育環境の安定化で、増収を目指す！

本社 加工品営業部 羽鳥 慎吾 (埼玉県行田市 出身)

2018年より販売を開始した『エナジーキーパー®L』は、従来品より採光性を高め、葉物類の育苗用途・花卉類の内張りカーテンにもご採用いただいております。

今回はエナジーキーパーをサイドカーテン固定張りでご採用いただいた事例をご紹介します。

今回、ご採用いただいた経緯は、元々他社品PO系のフィルムを内張りカーテンとして使用していましたが、保温性に満足しておらず高い温度での管理が必要な南国果実栽培には、保温性の高い資材が不可欠と思っていた。そこで、「多層断熱資材」である「エナジーキーパー®L」を紹介しました。「この資材であれば、保温性は高そうで長持ちしそうだ」とのお声をいただきサイドカーテンに採用していただきました。

設置作業は、生産者の方が自ら施工され、「非常に軽く、施工も難無くできた」との感想をいただきました。

また、エナジーキーパー®Lの遮光率は約74%なのですが、右の施工後の写真のように、ハウス内の採光性も非常に良く作物の生育にも影響ありませんでした。

今後も農家の皆様の農業にお役立てできる資材をご提供してまいります。



上：ハウス内展張り状況

下：左) 補強パイプ部分の施工 右) ハウスサイドカーテン固定張り

当社ホームページからカタログをご覧ください。

東京インキ株式会社 <http://www.tokyoink.co.jp>



製品検索

キーワード

エナジーキーパー

検索

check!

ハウス内里芋貯蔵用途に採用

エナジーキーパー[®] (品番: **EK-B**)

簡易貯蔵で里芋の収納、出荷作業低減!

従来の貯蔵

ハウス外に穴を掘り、12月頃収穫をした里芋を掘った土の中に入れ、その上から土を50cm～1mほど被せて貯蔵を行っていました。1月頃から順次出荷作業を行う際は、被せた土から掘りおこしながら収穫を行っており、非常に手間がかかっていました。



エナジーキーパーを使用した貯蔵

ハウス内にパイプを組み、周りを古畳で囲いその中に里芋を入れる。
11月中旬～12月中旬まで里芋を乾燥させその後1月～2月に出荷。

今回、エナジーキーパー(EK)を2通りで設置しました。

ケース1 里芋の上に、よしず+ワラ(厚み5～10cm)+EK

ケース2 里芋の上に、ポリ+EK

結果 **ケース1** EK内部の温度は、15℃前後で安定。湿度が少なく腐れが少ない。

ケース2 EK内部の温度は、15℃前後で安定。湿度が多く腐れがケース1より多い。

ケース1、2共にEK内部の温度は、15℃前後で安定しており、
ハウス内での貯蔵は、収納、出荷が容易で省力化に繋がりました。



パイプで畳を組む



里芋を畳で囲む



里芋出荷中の様子

